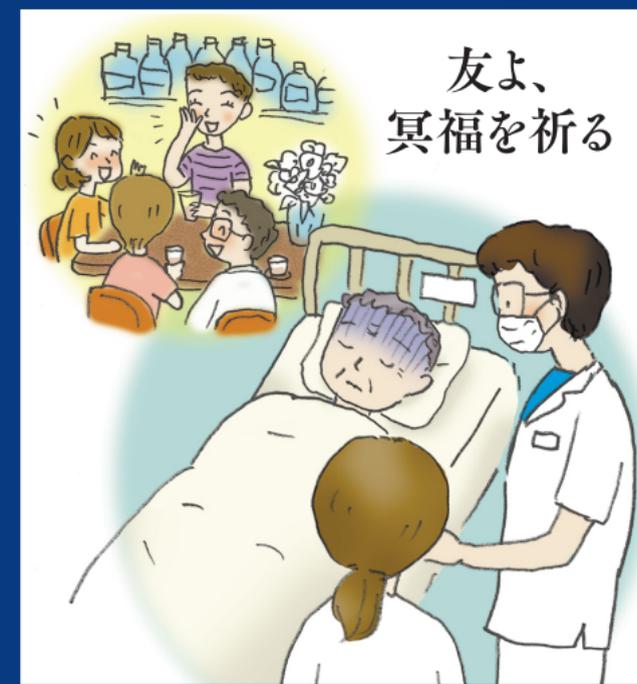


社会保障領域のインフルエンサーを目指す医療法人東西会グループ

連載 140 在宅医療奮闘記

平成7年より在宅を開始した私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック理事長 橋本 満義 (72歳・内科)



友よ、冥福を祈る

患者K.Hさん(70歳男性)は「ネコ」である。「タチ」ではない。

そうなんです。彼は「LGBTQ」の内のGAY(ゲイ)なのです。職業はゲイバーのマスターであり、私の友人です。…といっても、私は至って普通で“ソーマル”すぎる興味持ちです。元々は30年前のバブル時代、私の高校時代の同級生が“デパート外商部”に勤めており、接待でお客様のご婦人グループを引き連れて利用していたのです。

その後、私たちの卒業した高校の同窓会でも利用し始めました。そして10年くらい前から、病院スタッフ(介護・医療・事務等々)の親睦会で利用

するようになると、とても評判が良くみんなに喜んでもらったものでした。

人生いろいろ、色彩があってこそ「つながって、共に創る未来へ」が確かなものになるのです。

しかし、その日がついにやってきました。彼のお店が繁栄していた時代は長かったのですが、コロナ禍で2、3年前よりお店はほぼ休業となっていました。そんな折、彼から病气、体調の相談やガン専門高度機能病院に受診していたことを打ち明けられました。彼は半年前より体調不良となっていました。末期ガンが悪化していたのです。そして、先日とうとう天国へと旅立っていきました。

最期の1か月間、本人の希望により在宅医療をしていました。当院スタッフで対応していましたが、急性呼吸不全からレントゲン上で胸水貯留がみられ、救急搬送されました。その翌日、天国へと旅立ったのです。

改めて人生「楽しい・嬉しい・夢のある」一面「悲しみ・侘しさ・辛さ」など十分味わってこそ、他人や周囲を気遣い、香りを感じ「他者と自己」や「後の先」などの意味を体で感じ、個人の人生に幅とゆとりができる様であると意識し始めました。私も73歳、お年頃かもしれません。

“友よ、冥福を祈る” いずれ我も参るよ!

～安全・安心・健康塾～

〈ボランティア活動〉

人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール) 現場の人たちを救命救急士として教育する 「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。



医療法人 東西会グループ
外来診療 (かかりつけ医) **内科** 要予約
内科・外科・麻酔科・ペインクリニック内科
(医師/薬村 歩)

お医者さんが来てくれる! 24時間・365日体制で対応 (松山市全域)

私たちは、質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。

医師数 24名 (令和4年11月現在)



訪問診療

末期がん治療 (緩和ケア) 相談室開設!

(医)東西会イメージキャラクター「イチゴ・ツル・カメ」三世代の「絆」を表すキャラクターです。イチゴはこどもたち、ツルはお父さん・お母さん、カメはおじいちゃん・おばあちゃんを表しています。

国立愛媛大学附属病院臨床研究協力機関
大阪医科大学(研修医・医学生)在宅医療研修・研究協力機関
関西医科大学との在宅医療研修・研究協力機関

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
(医)東西会 千舟町クリニック 松山市千舟町6-4-9
Tel:089-933-3788
http://www.touzaikai.jp/